

中華人民共和国 蘇州市との協定書の締結

本学では蘇州中学(中学は日本の高等学校に相当)と2004年2月に中学の優秀な学生を優先的に確保することを目的とした「生源地」協定を国際教養学部との間で締結しています。

本学では国内において墨田区、新宿区、杉並区、川口市などと包括的協定を結んでいますが、今回初めて海外の自治体として蘇州市と協定を結びました。この件について小口彦太理事にお聞きしました。



協定の目的、なぜ蘇州市なのか

白井総長の大きな目的に「アジア太平洋地域における『知の共創』」があります。アジア太平洋地域において様々な大学・自治体等と連携し、互いに刺激し合い、また協力しあって大きく世界に羽ばたいていこうというものです。蘇州市との協定の締結はアジアにおける最初の事例であり、是非とも成功させていきたいと考えています。

蘇州市は、中国江蘇省南部に位置し、江南デルタ地帯中央部の水上交通の要所を占め、経済都市として繁栄してきた都市です。近年、工業団地の整備により急激に経済的な発展を遂げるとともに、日系企業が多数進出しており、日中の経済交流拠点となりつつあります。

早稲田大学は、既に国際教養学部と「江蘇省蘇州中学」との生源地(生徒の源の拠点)協定により、大学進学に関する協力関係を構築しており、蘇州市と良好な関係を持つにいたっています。

蘇州市と締結する協定書の内容は以下に示すとおりですが、人材育

成、研究内容の応用、人事交流を主とした内容であり、具体的な内容等は個別の事業ごとに協議調整のうえ進めることとしたいと考えています。

協定内容について

- 蘇州市または早稲田大学が関係する人材育成事業
- 行政改革に関する事項
- 技術開発に関する事項
- 蘇州市および周辺地域の地域経済振興
- その他地域社会の発展への寄与に関する事項

以上が包括的な協定の内容になりますが、具体的な話としては、例えば本学の公共経営大学院に蘇州市で働く方に留学してもらうこととか、現地の企業に早稲田大学へ留学する際の奨学金を設立してもらうなどの話があります。

期限は

2004年8月7日から5年間とし、以降の継続・更新については改めて協議することになります。

今後もこのような海外の自治体との提携はあるのか?

今後提携が結ばれる可能性がある場所は、日本企業が進出しており、かつ本学が受け入れたい優秀な学生を多く抱える学校がある自治体になるでしょう。



蘇州市との調印(8月7日。右は蘇州市長 楊衛澤氏)

蘇州市とは

蘇州市は揚子江デルタ地帯の中部、江蘇省南部に位置する人口583万人の都市。1992年に工業団地として「新区」、続いて1994年に「園区」を相次いで整備し、経済的に急速な発展を遂げている。2003年度の外資総額は中国全土で第1位、工業生産高第2位、対外輸出入高第3位、GDPでも第5位となっている。日経企業も多く進出しており、製造業を中心に蘇州市内だけで新区に約230社、園区に170社が事業活動を展開している。日系企業の進出増に伴い、蘇州市に在住する日本人数も急増している。これを受けて、2005年4月には日本人学校(小学校・中学校)が新区内に設立される予定。

教育分野においては中国の重点校のひとつであり、970年の歴史

を持つ蘇州中学(中学は日本の高等学校に相当)があり、2004年2月には同中学の優秀な学生を優先的に確保することを目的とした「生源地」協定を本学国際教養学部との間で締結している。また、高等教育の分野では、園区内に敷地面積10平方kmの「高等教育区」を整備しており、有力大学を誘致して大学院レベルの教育を提供することで蘇州市に進出する企業へ優秀な人材を供給するシステムの構築を進めている。高等教育区へ進出が決定している大学には、北京大学、清華大学、中国科技大学、西安交通大学、中国人民大学、香港大学などがあり、また海外からはイギリスのウォーリック大学が進出を予定しており、シンガポール国立大学が同区で復旦大学と共同で大学院プログラムの提供を行う計画を進めている。